

【東日本大震災に関する研究報告】

サステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト千葉WG
－創造的プラットフォームづくり－

日大生産工 ○北野幸樹

1. はじめに

日本建築学会サステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト特別研究委員会（2009～2010年度）は、地域の環境・空間・文化システムを継承する地域の固有性を尊重するデザインを「サステナブルエリアデザイン（SAD）」としてその理念と方法論を検討し、それに対応できる日本の都市や公共空間・公共施設に関する計画の枠組み、すなわち制度やまちづくりに関わる職能の課題についても視野に入れて広く議論した上で、日本型あるいはその地域に相応しい担い手としての（これは必ずしも個人・職能ではなく、活動のグループ又はシステムとしてとらえている）「コミュニティーアーキテクト（CA）」のあり方を考えることを目的として様々な活動が展開されてきた。このようなSDAとCAの観点から、各地域において調査・研究、具体的な活動として継続して取り組まれることが重要と認識され、それを受けて千葉地域においても活動（SDA&CA千葉WG）が展開されている。

2. SDA&CA千葉WG

SDA&CA千葉WGでは、サステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト特別研究委員会での活動を継続し、地域の固有性を有した持続可能な社会の構築にむけた建築・都市計画、農村計画、まちづくり活動に求められる理念、仕組み、担い手に視座を置き、海・川・里山等を有する変化に富んだ首都圏千葉エリアにおいて、先導的なまちづくり事例を踏まえて、千葉エリアの持続可能なまちづくりの方向性を探るために、継続的交流活動を促し、千葉エリアの活動・研究組織の展開に向け、以下の幹事が中心となり、千葉地域フォーラム等を継続的に開催している。

SDA&CA千葉WG幹事（2011年10月現在）

麓佳正（日本建築学会千葉支所長）

川岸梅和（日本大学）

太田安則（佐藤総合計画）

成岡茂（千葉県OB）

北野幸樹（日本大学）

海老塚良吉（都市再生機構、法政大学）

第1回：千葉エリアでサステナブルエリアデザイン（SAD）を語る～持続可能なまちづくりのために～（2010年9月15日）

第2回：サステナブルエリアデザイン（SAD）を考える～千葉エリアの持続可能な活動と展開～（2011年3月28日）
（日本大学生産工学部津田沼キャンパスにて）

3. 大震災後のSDAとCAを考える

東日本大震災と震災後の状況を踏まえて、様々な価値観の変化（エネルギー、安全・安心、都市・福祉政策、歴史・文化、景観、生活環境、コミュニティ等々）とこれからの持続可能なまちづくり（SAD）とその担い手（CA）の役割を明確にし、次世代へと繋がる創造的プラットフォームづくりと体系化に向けて、震災後の地域コミュニティ・空間の継承の観点を含み込み活動を継続している。

第3回：大震災と千葉エリアの創造的プラットフォームづくり（2011年10月7日）

基調講演

延藤安弘（愛知産業大学大学院造形研究科教授、NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事）

「大震災をきっかけとした価値観の変化とこれからのまちづくり」

高橋賢一（NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会代表）

「大震災における重要伝統的建造物群保存地区の取り組み」

Sustainable Area Design and Community Architect, Chiba Area WG
－Making of Creative Platform－

Koki KITANO

表1 地域固有の空間遺産

	「継承してきた空間遺産」	「失われた空間遺産」	「将来に継承すべき空間遺産」
定義	地域（自治体や住民等）が保存・整備や維持・管理などの活動を通して継承してきた地域固有の空間や遺産 [事例数：216 事例]	将来に継承すべきであったが（過去に存在していたが）、既に失われてしまった地域固有の空間や遺産 [事例数：78 事例]	今は保存・整備や維持・管理などの活動を行っていないが、将来に継承すべきと思われる地域固有の空間や遺産 [事例数：126 事例]
属性	建造物系 83 事例 景観系 71 事例 街並空間系 65 事例 生態系 14 事例 産業系 13 事例 [回答率 100%]	建造物系 30 事例 街並空間系 29 事例 産業系 13 事例 景観系 12 事例 生態系 2 事例 [回答率 100%]	景観系 50 事例 建造物系 45 事例 街並空間系 34 事例 産業系 9 事例 生態系 7 事例 [回答率 98%]
成立年代	中世以前 46 事例 中世 87 事例 近世 80 事例 近代 30 事例 現代 16 事例 [回答率 97%]	中世以前 12 事例 中世 20 事例 近世 35 事例 近代 17 事例 現代 8 事例 [回答率 100%]	中世以前 13 事例 中世 37 事例 近世 54 事例 近代 24 事例 現代 11 事例 [回答率 94%]
自然条件	山 56 事例 川 30 事例 丘 23 事例 雑木林 22 事例 田んぼ 19 事例 水路 13 事例 谷戸 12 事例 その他 10 事例 [回答率 68%]	水路 15 事例 山 11 事例 丘 11 事例 谷戸 7 事例 川 7 事例 田んぼ 5 事例 雑木林 3 事例 その他 4 事例 [回答率 69%]	山 33 事例 丘 20 事例 川 20 事例 田んぼ 17 事例 水路 14 事例 雑木林 13 事例 谷戸 6 事例 その他 16 事例 [回答率 85%]
イベント	お祭り 96 事例 清掃活動 74 事例 フリーマーケット 8 事例 盆踊り 3 事例 その他 12 事例 [回答率 70%]	お祭り 27 事例 清掃活動 10 事例 盆踊り 2 事例 フリーマーケット 1 事例 その他 0 事例 [回答率 49%]	お祭り 45 事例 清掃活動 35 事例 フリーマーケット 2 事例 盆踊り 0 事例 その他 3 事例 [回答率 62%]
その他	担い手組織の性格 住民が自主的に組織する団体等 115 事例 市町村が関与する協議会等 73 事例 NPO 組織 21 事例 [回答率 86%] 組織の構成メンバー 住民 144 事例 景観・文化財等の精通者 44 事例 市町村関連の人材 33 事例 商工業者 29 事例 農業従事者 24 事例 建築士・都市計画家等 22 事例 [回答率 87%]	失われた原因 価値観の変化等 37 事例 公共事業や復興事業 27 事例 近代化 23 事例 災害等 18 事例 人口問題 10 事例 [回答率 95%] 必要だった人材 市町村関連の人材 33 事例 建築士・都市計画家等 29 事例 住民 19 事例 景観・文化財等の精通者 4 事例 [回答率 74%]	継承に当たっての課題 資金等に関する課題 86 事例 人材等の課題 54 事例 計画策定に係る課題 11 事例 住民等の理解や協力 61 事例 [回答率 95%]

4. 創造的プラットホームづくり

大震災の発生により地域コミュニティの持続・継承及び再生そして創造の問題は、被災地域に限られた深刻な問題としてだけでなく、その周辺支援地域のコミュニティ活動の重要な課題となっている。被災地域における生活環境の維持・再生に向けて求められる計画的支援の枠組みと方法論（SDAとCA）は、日本の各地域における生活・コミュニティ環境の継承・創造に向けて必要不可欠である。

「地域に持続・継承されてきた地域固有の活動・空間・時間を次世代に継承し、再生していく必要性」「継承されてきた生活の秩序とそこで営まれてきた活動と調和する空間の持続性」に視座を置き、持続可能な地域社会の継承と再生に向けて、地域固有の自然、歴史、人、活動、空間から創出されるサステイ

ナブルエリアデザインの基盤となり支援する創造的プラットホームづくりが真に求められる。

5. 地域固有の空間形成についての意向調査

どのような地域固有の空間遺産が既に失われ、継承され、更に今後継承されるべきか、それら実態、意向に関する事例調査結果を表1に示す。調査期間：平成22年12月～平成23年3月）、調査方法：WEB、E-mailによる回答、調査対象市町村：302市町村（全国市町村の17.5%）、回答数：142市町村（回答率47%）（SDA&CA 地域持続空間意向調査WG実施）これらは防災と併せた地域に継承される人・活動・空間の関係性と場所性の記憶であり、地域の価値と目標の共有化に繋がると考えられる。

参考文献

- 1) 地域主権・地域再生とコミュニティアーキテクト資料集、日本建築学会 サステイナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト特別研究委員会、2011.6